

日清製粉グループ 第3四半期連結決算、通期連結業績予想

[平成18年3月期第3四半期連結決算]

厳しい環境の中、増収を確保するものの、販売促進費等の支出により経常利益は減益

株式会社日清製粉グループ本社（社長 長谷川 浩嗣）の平成18年3月期第3四半期（平成17年4月1日から平成17年12月31日まで）においては、小麦粉、ドライ加工食品など主力製品をめぐる市場環境は需要の伸び悩みと低価格志向が継続する厳しい状況となっており、その中であって当社グループも、特に10月以降は天候不順等の影響もあり出荷伸長を十分に実現できなかったことや、中食・惣菜事業の進捗も計画を下回ったことに加え、シェアアップに向けての販売促進費や新製品上市に向けた研究開発費等戦略経費の投入と安全・安心への投資を継続したことから連結業績は計画を下回りました。

この結果、売上高は大口工事が順調に完工したプラントエンジニアリングの売上げ増等により3,179億77百万円（前年同期比2.1%増）と増収となりましたが、経常利益は182億37百万円（前年同期比0.4%減）と減益となりました。四半期純利益は98億88百万円（前年同期比1.0%増）となりました。

[平成18年3月期通期連結業績予想]

当期の経常利益は減益にとどまるものの、中期的なグループの成長を見据えた施策を着実に実行

当社グループにおきましては、本年度を初年度とする第二次中期経営計画を推進し、3年後の目標数値実現に向けて取り組みを進めております。海外事業における中国プレミックス事業拡大、中食・惣菜事業においては一層の経営資源を投入し遅れを取り戻すべく努力するとともに、東灘製粉工場建設など事業基盤確立施策を継続しコスト体質強化を図るなど、中期経営計画に盛り込まれた各施策を着実に実行しております。

第4四半期は、製粉事業においては出荷が復調すると共に、ふすま相場の一段の上昇と更なる製造コストの削減を織り込む外、食品事業においても増収効果で業績は堅調に推移する見込みです。以上第3四半期をボトムとして業績は回復基調に入りますが、第3四半期までの実績を踏まえて11月公表の通期業績予想を売上高、利益とも引き下げております。残ります期間、グループを挙げて業務に邁進し、業績の改善に努力する所存であります。

通期業績予想は、売上高は4,220億円（前期比1.4%増）と増収の見込みです。利益面では、経常利益は247億円（前期比1.7%減）、当期純利益は132億円（前期比2.9%減）とそれぞれ減益となる見込みです。

以上